

みみタロウ

日本語版

97号 2012年12月

滋賀県国際協会 ボランティアグループ「みみタロウ」
大津市におの浜 1-1-20 ピアザ淡海 2F

Tel/Fax : 077-523-5646

E-mail : mimitaro@s-i-a.or.jp

URL : http://www.s-i-a.or.jp

グローバルな世界の中へ!

今回、みみタロウは、滋賀県で学生時代を過ごし、現在、東京でお仕事されているエイザギレ・ナカニシ・マリオさんに電話でインタビューをしました。



僕が、家族と一緒にベネズエラから来日したのは、14歳の時のこと。水口中学校に転入しましたが、もちろん日本

の言葉も文化も全くわからなかったもので、戸惑うばかりの日々でした。当時の唯一の救いは、先生と、得意な英語でコミュニケーションをとることができたことでした。

その翌年には、日本語がまだ不十分ながらも、大津清稜高校に進学。夜間高校だったので、1年目は昼間家で自習をし、2、3年生の時には、アルバイトをした後高校に行き、帰宅は夜の11時、といったハードな生活を送りました。学校の日本語教室は僕が高校3年になるまでなかったもので、日本語の勉強は辞書を引ながらの独学です。その後、先生のアドバイスもあって、大学に進学することにし、京都外国語大学で英語を専攻しました。

大学3年生の時、1年間休学して甲賀市の国際交流員の仕事に従事しました。仕事の内容は主に英語の通訳と翻訳でしたが、僕自身、ネイティブではないのでしばしば冷や汗をかくことも。ミンガン州にも同行させていただいたり、その他様々な体験をし、僕の国際関連の仕事の第一歩となりました。大学に復学後は、今度滋賀県のスペイン語の教育支援員になり、学校で外国人生徒の隣に座って、学習のお手伝いをしました。時には、反抗期の子どもの手こずることもありましたが、自分の体験を重ね合わせることもあり、子どもたちと過ごした時間はとても楽しい思い出です。

大学を卒業し、最初に就職したのは、海外へ積極的に進出を図っている飲食産業の大手企業です。そこでは、学生時代には体験したことのない、上下関係や和を重んじる日本企業特有の文化を経験。店舗経営全般に携わり、大変勉強になりましたが、自分の目指すものは飲食業とは別にあると考え、転職することにしました。

そして今、「ダイジョブ」という、バイリンガルに特化した外資系転職サイトの会社で働いています。現在、9万件を超える外資系企業や海外駐在員などの募集があり、登録者数380万人の、グローバル企業の人材をサポートをする会社です。僕の仕事は、バイリンガルの人材を求める企業を国内外で開拓する営業職。同僚には中国語を話すアメリカ人や英語を話すロシア人がいて、僕は英語とスペイン語を使って仕事をしています。今後益々、あらゆる分野でグローバル化が進み、バイリンガルな人材の需要は大きくなるでしょう。そういう意味で、今の仕事は大切だと思うし、また、この仕事を通して、日本に住む外国人のチャンスを広げるお手伝いができればと思っています。

振り返ってみると、僕が今こうして働いているのは、進路を決める大切な時期に、学校の先生からの確かなアドバイスがあったおかげだと思っています。外国人の親は、日本の社会や学校制度がまだよくわかっていないこともあり、そんな中、先生が高校や大学の進学を勧めてくださったことが、僕の人生を方向付けるものとなりました。そしてもう一つ。僕は子どもの頃からグローバルな世界で仕事をして、幅の広い人になりたい、という夢があり、いつもこの夢に向かって歩んできました。ですので、若い皆さんにも、興味のあることをあきらめずに頑張ってほしいと思います。

グローバルな世界に足をつこんでいると、今は日本で仕事をしていますが、将来、世界のどこにいてもおかしくないな、という感覚でいます。そして、僕のセールスポイントは、あくまでベネズエラ人というアイデンティティですが、日本ももう11年になり、自分自身が何人なのかかわからないように感じる時もあるんですよ。でも、きっとこれでいいんだろうな、とも思うのです。